

第1回 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会要録

【日 時】 平成28年1月20日(水) 午後7時00分～8時53分

【場 所】 武蔵野クリーンセンター 3階見学者ホール

【出席委員】 阿部迪子 今木仁恵 岡内歩美 加藤慎次郎 木村 浩
(敬称略) 齋藤尚志 白石ケイ子 田口 誠 竹下 登 西上原節子
能勢方子 濱中洋子 平岡直樹 古川浩二 前田美和子

【事務局】 柏倉課長補佐 和地クリーンセンター所長 他

【欠 席】 迫田洋平 花俣延博 山本信之

【傍 聴】 0名

【配布資料】

- 資 料1 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会設置要綱
- 資 料2 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会委員一覧
- 資 料3 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会運営に関する基準
- 資 料4 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会の役割について
- 資 料5 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会スケジュール(案)
- 資 料6 武蔵野市のごみのゆくえ
- 資 料7 武蔵野市のごみの現状について
- 資 料8 廃棄物処理の費用(平成27年版 事業概要より)
- 参考資料 武蔵野ごみニュース(ごみ減量情報紙) vol.13～ vol.15
武蔵野市一般廃棄物処理基本計画(平成27年度～36年度)

1 開 会

2 委嘱上の交付 <<机上配布>>

3 自己紹介

<<各委員及び事務局職員が自己紹介を行った。>>

4 委員長及び副委員長選任

<<委員長を田口誠委員、副委員長を西上原節子委員に決定した。>>

<<委員長及び副委員長がそれぞれ挨拶を行った。>>

5 議 題

(1) 会議運営基準について

《事務局より、武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会運営に関する基準について説明を行った。》

(2) 武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会の役割について

《事務局より、武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会の役割について説明を行った。》

(3) スケジュール（案）について

《事務局より、スケジュール（案）について説明を行った。意見がなかったため「(案)」を取ることにした。》

(4) 武蔵野市のごみ処理の全体像について

《事務局より、ごみのゆくえ、ごみの現状、廃棄物処理の費用について説明を行った。》

【委員長】

資料6、7、8について質問等、自由に意見を伺いたい。

【A委員】

資料8（2）家庭ごみの分別品目別処理費用について、分からない数字がある為伺いたい。資源物の缶の1kg当たりの単価が183円と非常に高い値段になっているがどうしてか？

【事務局】

これは、あくまでかかっている費用を缶の重量（収集量）で割ると単純にこのような数字になる。今後この会議でも資料を出していくことになるが、実際には、処理を行ううえで何台必要なのかという車両台数の問題がある。例えば車両台数あたりで割ると、ペットボトルやプラスチック容器包装なども費用が上がってくる。ペットボトルやプラスチック容器包装は非常に軽いので、収集車両を缶の収集と同じ台数使っている、重量で割りかえすと非常に安く見えてしまう。昨年度開催したごみ市民会議の中でこういった数字を明らかにしていくべきというご意見をいただいた事もあり、平成27年度の事業概要より初めてこのような表で処理費用を掲載したが、缶の数字が突出して見えてしまった。数字の表し方として、何が実像として分かりやすいのかということについては、今後の研究課題だと思っている。

【B委員】

この表には書かれていないが、缶については選別、圧縮、保管棟の費用も含まれている。それから近年、缶容器の軽量化が図られている関係で、例えば紙の売り払いが年間5,500万円で、缶は3,900万円だが、重量は紙が約219t、缶が約126t、重量だけでみるとこうい

った結果になる。しかし、嵩の量など重量以外の要素もある程度ある。軽いものでも清掃車一台はいるという実態がある。また先程、事務局からもあった通り、ペットボトルがキロ 60 円と非常に安く感じるかもしれないが、ペットボトルとプラスチック容器包装は同じ日に回収している。現実には単価構成で考えれば、ペットボトルの方がもう少し高く、プラスチックの方がもう少し安くなる。単価だけではなく、ものの比重と同時に考えないと難しいように感じる。

【委員長】

他に質問はあるか？

【C委員】

今回の委員会の目的がどういったところにあるのか、私もまだ手探りの状態なので、今後皆様と進めていきたい。

質問ではないが、資料 6 のごみのゆくえについて、私なりの整理をさせていただくと、クリーンセンターに入ってくるごみ（燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、有害ごみ）は 658g 中約 456g あり、やはり多い。特に燃やすごみは 396g あり、その中には不適物もあれば、まだ食べられるのに捨てられる生ごみもある。そういったことについて啓発していき、燃やすごみを減らしていかなければならない。

燃やさないごみや粗大ごみの中には、小型家電が含まれている。これをピックアップし、都市鉱山という形で工場に還元していこうという小型家電のリサイクル法ができ、そういったところに寄与したいという思いがある。

また、燃やさないごみの中にある、フライパンや鍋類に関しては、ほかの自治体では鉄として回収しているケースがある。そういった見直しが可能性として、あるのかないのかということも視野に入れていかなければいけないと思っている。

問題は、資源物の 209g である。実際はこの部分もカウントされているということ、市民の方々は理解されていないところがある。特に、缶・ビン・古紙・新聞は重量がある。かたやペットボトルやプラスチックは重量は少ないが、嵩がある。重量のマジックについては、同様にカウントしていいのか、嵩も入れてカウントするべきではないかと私なりに疑問に思っている。先程、B 委員からもご説明があった通り、武蔵野市にはリサイクル工場がないため、缶・びん・ペットボトル・その他プラスチック容器包装は、瑞穂町という 20 キロ以上も遠方にある加藤商事まで運んでおり、処理をお願いしている。非常にコストがかかっているため、ここを減らしていく必要がある。いなげやさんのようにペットボトル、びん、缶などお店で経費を出して店頭回収を行っていただいているところである。それから、新聞も新聞社によって、自主回収を行っているところもあれば、回収していないところもある。また、最近新聞は購読していないという話も聞き、新聞が減っているという実態もある。社会環境の変化があり、トータルで今の回収方法、収集頻度が良いのかど

うなのか、すぐにできるかできないかを議論しなければならない。

そして、一番の大本は市民が食べ残さない、適正な分別をするなど基本のところを啓発していかないといけない。今回の委員会は主な論点があるが、色々なからくりがあるためすぐにイメージが出来ない。しかし、皆様のお立場でどのように考えているのかご意見をいただきながら、何かいい方策があるのかどうなのかというところを、皆様と議論していきたいと思っている。最終的な解決ができるか分からないが、一定の方向性というものが求められているのかなと私なりには理解しているところだ。

【委員長】

今後出てきた資料で、分からないところがあれば随時ご質問いただきたい。

(5) その他について

【委員長】

最後に、その他として事務局の方で何かあるか。

【事務局】

事務局からは特にない。

【委員長】

それでは、議題はすべて終了となる。今後の日程について事務局よりお願いしたい。
《事務局より、今後の日程について説明を行った。》

【委員長】

全体を通じて、ご意見ご質問があれば伺いたい。

【D委員】

これからの会の進め方だが、これだけの人数の中で発言を聞いていくのはどうなのか。大事な時期でもあるので、もう少し密度の高いやりとりをしていく方法を考えた方が良いのではないか。また次回、何を中心に話をしていくのか、予告・宿題等を合わせて考えていった方が良いのではないか。

【委員長】

今回は初回ということで、皆さまの立場でお話を伺ったが、次回は現状の説明から始まり、具体的な話になっていくと思うのでそのように心掛けたい。

ではこれにて、閉会とする。

以上